

## 「木の葉化石 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

6年生の「土地のつくり」の単元では、化石についての扱いはある。実際に産地に出かけて、露頭から化石を掘るのが一番いい活動だろう。しかし、それは費用、時間、安全面などのさまざまな制約があり、容易なことではない。そこで私は、卒業を目前にした6年生の最終授業で、教室で化石探しの活動をさせている。

原石は、栃木県の「木の葉化石園」から取り寄せる。「木の葉化石園」というのは、かつて塩原カルデラにあった塩原化石湖(古塩原湖)に堆積した、湖成層をメインとした博物館である。ここでいう「化石湖」というのは、「化石を産する湖」という意味ではなく、「かつて湖だった場所」という意味で使われる。その湖に火山灰(主として高原山由来)や、動植物が体積したものが湖成層である。

湖成層の特徴は、陸生植物の化石が大量に産出する点にある。堆積して30万年程度と、あまり時間がたっていないので、産出する植物もほぼ現生のものと同一种で、同定は通常の樹木図鑑で可能である。ほかにも水草(例えばマツモ)、昆虫(ハチが多い)、時にはカエル(シオバラガエル)、ネズミの化石も出るといふ。



化石の原石は「木の葉化石園」に直接ファクシミリで注文する。教育機関や大学のみ取扱い可能で、個人での注文はできない。1週間程度でこのように宅配便で届く。(1箱20kg・・・結構重い)



中には袋に分けた原石がぎっしりつまっている。これが「宝の山」というわけだ。



一つの袋には、8cm角程度にカットされた原石が5～6個入っている。あらかじめカットされているのは、授業で使う上では、非常に有難い。6年生には、一人2個ぐらい渡せば良いので、予備も入れて、二人で1袋の計算で注文するとよい。

原石は続成作用(火山灰や砂が長期間で岩石に変化する過程)があまり進んでいない。「やや硬い砂のかたまり」という感じである。特に大量に注文すると、注文後に地層から切り出すので、やや湿った状態で届く。これは実は、子どもたちが化石さがしをするのに好都合である。層理面(地層が重なった水平方向)に割るのが容易なのだ。道具も特別なものは不要で、マイナスドライバーと、小さなハンマーがあれば十分である。さて結果は・・・? (つづく)